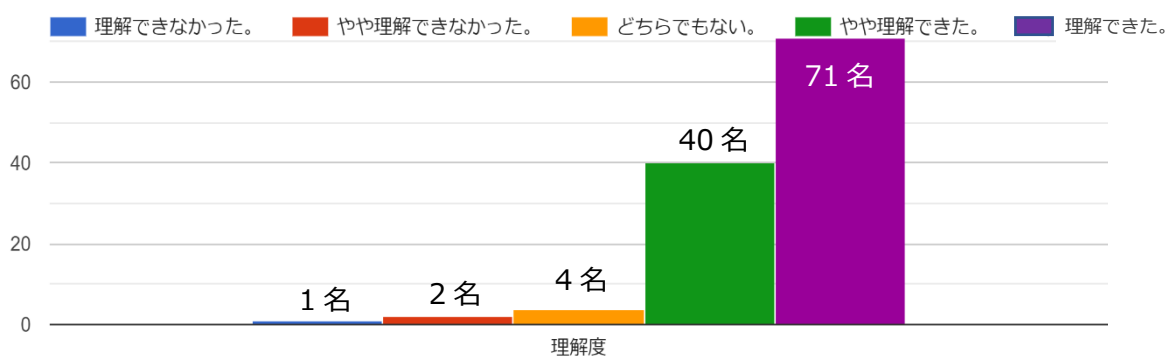


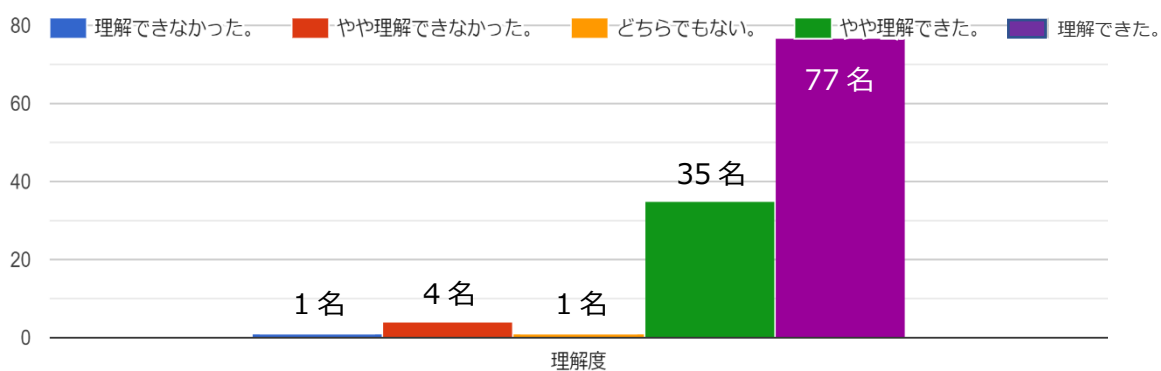
2020 年度 愛臨技生物化学分析検査研究班 12 月講演会
アンケート集計結果

作成日：2021 年 1 月 17 日

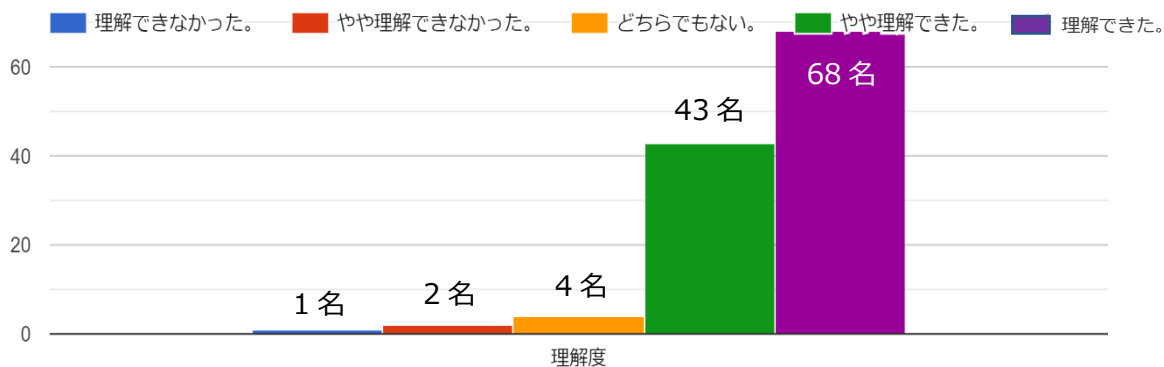
アンケート 1) 酵素項目の基礎知識



アンケート 2) ALP/LD_IFCCへの移行について

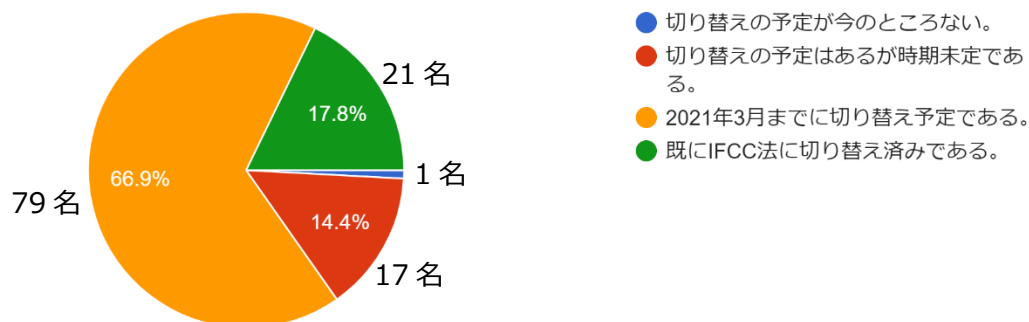


アンケート3) 酵素項目の標準化について



アンケート4) ALP/LD_IFCCへの切り替えについて

118件の回答



参加者 118 名の内、100 名（84.7%）のご施設において、2021 年 3 月までの切り替えが予定されています。日本臨床化学会より報告されている移行期間（2021 年 3 月末）までの切り替えを完遂すべく、まだ切り替えが完了していないご施設は早急にもご検討いただきますよう、お願い致します。

アンケート5) 本講演会のどのような点が特に役立ちましたか。（一例）

- ・ 酵素項目を基本から学ぶことができたこと。
- ・ JSCC 法と IFCC 法の違いが分かり易く、理解できたこと。
- ・ ALP_IFCC、LD_IFCC の切り替え（変更点や注意点）について参考になったこと。
- ・ 酵素項目の標準化について、経緯や必要性について理解できたこと。

アンケート6) その他ご意見 (一例)

たくさんのご貴重なご意見ありがとうございました。

今回頂戴しましたご意見に対し、以下の通り、一部ご回答させていただきます。

ご意見①：Web 録画の配信がとても良かった。

(場所を選ばない、いつでも自分の都合で視聴できる、今後も録画配信を継続してほしい、交通費がかからない、何度も見直せる)

回答①：ご評価いただきありがとうございます。今後 (コロナ終息後も) 定期的な Web 配信の導入も検討させていただきます。

ご意見②：聞き取りにくい。(入力音声音量について)

回答②：ご指摘ありがとうございます。今後改善に努めてまいります。

ご意見③：講演 1.2.3 の内容で、重複する部分の調整ができると、なお良いと思います。

回答③：今後の研究会の課題とし、更なる改善に努めてまいります。

ご意見④：他施設の切り替え状況 (情報) が入りにくいいため、情報が欲しい。

回答④：今回の変更に関わらず、各会員ご施設の一助となるよう最大限の情報発信に努めさせていただきます。

ご意見⑤：もう少し早く移行の情報が知りたかった。

回答⑤：ご指摘の通りです。今後も最新の情報をいち早くお届けできるよう努めてまいります。

ご意見⑥：TSH のハーモナイゼーションについても興味があります。

回答⑥：標準化の動向については、今後の研修会テーマとしても検討していきたいと存じます。

ご参考までに日本臨床化学会 HP にも国内での対応について報告^{※1}がありますので、ご一読下さい。

※1 日本臨床化学会HP (2021年1月17日時点) <http://jscc-jp.gr.jp/>
「TSHのハーモナイゼーションへの日本の対応」

ご意見⑦：IFCC 法について、その他各国は、どのような点を重視してきたのかなど掘り下げて知りたい。

回答⑦：標準化の動向と合わせて、今後の研修会テーマとしても検討していきたいと存じます。

ご意見⑧：アイソザイム検査の IFCC 対応試薬についても知りたい。

回答⑧：標準化の動向と合わせて、今後の研修会テーマとしても検討していきたいと存じます。

国内で使用されているALP アイソザイム試薬を販売しているのは1社のみであり、そのメーカーにてIFCC 法に対応したアイソザイム検査試薬が発売される予定と聞いています。検査センタ

ーには2020年4月から当分の間、現行法とIFCC法に対応した新試薬による測定の両者から選択して依頼できる体制をとって頂く必要があります。^{※2}

※2 日本臨床化学会HP（2021年1月17日時点） <http://jscc-jp.gr.jp/>
「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」より引用

ご意見⑨：コロナ渦で、中核医療施設の移行が時期は遅れていると思う。

回答⑨：各ご施設の一助となるよう、更なる情報発信に努めてまいります。

ご意見⑩：基準値などの変更されるような項目があれば、研修会にて取り挙げてほしい。

回答⑩：今後の研究会テーマとしても検討していきたいと思えます。

ご意見⑪：人間ドックや検診をしている施設では受診者に結果を送るのにJSCC法とIFCC法の両方の記載するのか、どちらかだけなのか決まっている施設はあるのか教えていただきたいです。

回答⑪：報告形式は、現状、各施設に委ねられているものと存じます。ご参考までに、日本臨床化学会から、「ALPの場合、IFCC法に変更後に参考までに従来のJSCC値を表示する必要がある場合は、一時的にIFCC法測定値を2.84倍してJSCC法への換算値として表示する対応策も考えられます。この場合、JSCC法とIFCC法の反応性の差から換算には限界があり、特にB・O型の換算値は実際のJSCC法測定値より低値を示す事例があることを臨床側にアナウンスしておく必要がある」と報告^{※3}されています。技師会としても今後も情報収集に努め、可能な限りの情報発信に努めてまいります。

※3 日本臨床化学会HP（2021年1月17日時点） <http://jscc-jp.gr.jp/>
「ALP、LDの測定方法の変更に関するご案内」より引用

ご意見⑫："私どもの施設は人間ドック業務を行っています。今回ALP・LDの基準値変更に伴い、結果表記をどう分類するか非常に悩みました。A判定(異常なし)は新しい基準値を用いるのですが、B～D判定は各施設で異なるようで。。。判定区分を考えるにあたり参考となるものがあれば今後の勉強会で取り上げて欲しいです。

回答⑫：健診施設における判定は、現状各施設に委ねられているものと存じます。技師会としても今後も情報収集に努め、可能な限りの情報発信に努めてまいります。

ご意見⑬：web方式である強みを生かしてスライド上にたくさん情報を入れ込んでいただけると見返せるため、より助かるかなと思いました。

回答⑬：ご意見ありがとうございます。今後の研究会の課題とし、更なる改善に努めてまいります。

<まとめ>

昨今のこの状況下に於いて、Web 研修会を取り入れることで、多くの方に参加いただき誠に有難うございました。Web 配信は、場所・時間を選ばず、何度も見返すことができることから、参加者の皆様から高く評価いただき、今後も継続的に Web 研修を取り入れていくことを検討していきたいと考えております。

今回の研修会では、酵素項目・標準化をテーマに掲げ、直近の課題である ALP/LD の IFCC 化をはじめとし、酵素項目の基礎から標準化の動向について理解を深めていただけたと思います。

また、ALP/LD の切り替え状況に関しては、今回参加 118 名の内、100 名（84.7%）のご施設で移行期間である 2021 年 3 月末までの切り替えが検討されていることが確認できました。日本臨床化学会より JSCC および IFCC への換算式も報告されておりますが、症例によっては、臨床との乖離を招く可能性もあります。

以上を踏まえ、時期検討中のご施設も早めの切り替えをご検討いただきますよう、お願い致します。

今回の研修会が皆様のご施設の精度維持・向上の一助となれば幸いに存じます。

以上

作成・回答編集・問い合わせ先：生物化学分析検査研究班 班長

株式会社グッドライフデザイン ラボラトリー事業部

佐藤 文明

TEL : 0565-25-3165

E-Mail : f.sato@goodld.com